



2016年6月17日

東燃ゼネラル石油株式会社  
問合せ先：  
EMGマーケティング合同会社  
広報CSR統括部  
TEL:03-6713-4400

## 2016年 東燃ゼネラル児童文化賞・音楽賞 受賞者決定のお知らせ

2016年東燃ゼネラル児童文化賞および音楽賞の受賞者が次の通り決定しましたので、お知らせいたします。

9月14日(水)ホテルオークラ東京で行われる贈賞式において、受賞者にそれぞれトロフィーと副賞賞金200万円を贈呈します。また、受賞記念公演を11月8日(火)紀尾井ホールにて開催する予定です。

### 第51回 東燃ゼネラル児童文化賞 受賞者

あまん きみこ

児童文学作家

### 第46回 東燃ゼネラル音楽賞 受賞者

邦楽部門	稀音家 義丸	(きねや よしまる)	長唄演奏家・研究者
洋楽部門 本賞	井上 道義	(いのうえ みちよし)	指揮
洋楽部門 奨励賞	萩原 麻未	(はぎわら まみ)	ピアノ

受賞記念公演には、本年も一般の方100名様を抽選でご招待いたします。詳細につきましては当グループのホームページ(<http://www.tonengeneral.co.jp/>)にて9月下旬にご案内する予定です。

東燃ゼネラル児童文化賞・音楽賞は、1966年にモービル児童文化賞、1971年にモービル音楽賞として創設されました。2001年にはエクソンモービル児童文化賞・音楽賞として継承され、さらに2012年6月の東燃ゼネラルグループの発足に伴い、名称を東燃ゼネラル児童文化賞・音楽賞と改めました。

これからも、私たちはこの賞の『一時の流行に惑わされることのない選考を通して、わが国の児童文化、音楽文化の発展、向上に尽くしてこられ、今後それぞれの分野の将来を担われる方々をたたえ励ます』という目的を大切にまいります。また、この賞を通じて人々が感動し笑顔になれ、子供達の明るい未来に繋がるような社会・文化貢献を進めていきたいと考えております。

以上

添付1: 贈賞理由及び受賞者のプロフィール

添付2: 東燃ゼネラル児童文化賞・音楽賞の概要

添付3: 歴代受賞者リスト



### 東燃ゼネラルグループについて

エッソ、モービル、ゼネラルのサービスステーションを全国に展開する当グループは、東燃ゼネラル石油株式会社を中心に、原油の調達、石油・石油化学製品の生産・販売、電力供給などを行なっています。環境負荷の低減に取り組みつつ、エネルギーの安定供給と優れた製品・サービスの提供を通じて、活力ある社会の発展に貢献したいと考えています。詳細につきましては、こちらのサイトをご覧ください。

(<http://www.tonengeneral.co.jp>)



This is MECENAT は、「芸術・文化振興による社会創造＝メセナ」の認定制度です。

※東燃ゼネラル児童文化賞の活動は、2015年、公益社団法人企業メセナ協議会に認定されました。



添付 1-1:各受賞者への贈賞理由及び各受賞者のプロフィール

1. 第 51 回 東燃ゼネラル児童文化賞

あまん きみこ  
児童文学作家



◆ 贈賞理由 ◆

1968 年、デビュー作『車のいろは空のいろ』で日本児童文学者協会新人賞を受賞して以来、『おっこちゃん  
とタンタンうさぎ』（野間児童文芸賞）など、主に幼い子どもたちを読者対象にした幼年文学の分野で  
素晴らしい作品を書き続けている。絵本でも、『おにたのぼうし』や、戦争の悲惨さを小さな子どもでも理解でき  
る物語にまとめた『ちいちゃんのかげおくり』（小学館文学賞）など、広く読み継がれてきた。『こがねの舟』や  
『七つのぼけっと』のように自然や人間の不思議さ、生と死などイメージ豊かなファンタジー短編集の他、『あ  
まんきみこ童話集』（全 5 巻）などで、多くの読者に共感されている、日本の現代児童文学を代表する一人だ  
である。（児童文化賞 選考委員会）

◆ プロフィール ◆

本名、阿萬紀美子。1931 年旧満州に生まれる。大阪府立桜塚高校を卒業後、結婚。二児の母親となつてか  
ら日本女子大学家政学部児童学科（通信）に入学。在学中に、與田準一氏に会う。坪田譲治氏主宰の童  
話雑誌『びわの実学校』に「熊紳士」を投稿し 13 号にとりあげていただく。その後『びわの実学校』に投稿した  
作品を纏めて「車のいろは空のいろ」を出版（ポプラ社）。それが思いがけなく日本児童文学者協会新人賞  
と野間児童文芸推薦作品賞を受賞。それから細い道を歩くように作品を書き続ける。『びわの実学校』同人。  
作品名は「こがねの舟」（ポプラ社）。「ちいちゃんのかげおくり」（あかね書房）。「ぼんぼん山の月」（文研出  
版）。「おっこちゃんとタンタンうさぎ」（福音館書店）。「だあれもいない？」（講談社）。「ゆうひのしずく」（小峰  
書店）。「なかないで、なかないで」（ひさかたチャイルド）。「鳥よめ」（ポプラ社）等。

◆ 主な受賞歴 ◆

1968 年 第一回日本児童文学者協会新人賞  
1968 年 野間児童文芸賞推奨作品  
1981 年 旺文社児童文学賞  
1983 年 小学館文学賞  
1986 年 絵本につぼん賞  
1989 年 野間児童文芸賞  
1990 年 ひろすけ童話賞  
2001 年 赤い鳥文学賞特別賞



添付 1-2: 各受賞者への贈賞理由及び各受賞者のプロフィール

## 2. 第 46 回 東燃ゼネラル音楽賞 邦楽部門

稀音家 義丸 (きねや よしまる)

長唄演奏家・研究家

〒152-0032

東京都目黒区平町 1-21-20-702

Tel: 03-3718-8065/Fax: 03-3724-6426



### ◆ 贈賞理由 ◆

今や長唄界の生き字引的存在の稀音家義丸氏は、85 歳を過ぎても素晴らしい声を聴かせ、現役長唄演奏家(唄方)の代表的な存在のひとりである。一方、長唄稀曲研究会や長唄正本研究会では研究者、長唄伝承曲研究会では後進の指導者としての顔ももち、稀曲の発掘や復曲を手がけるなど多面的な活動を展開している。古老からの教えや長唄についてのさまざまな知識をわかりやすくまとめた著作もあり、これらは長唄の研究者や演奏家たちにとって必携の書といえる。さらに、演奏と研究をつなぐレクチャーコンサートの出演も多く、若い演奏家や研究者たちに強い刺激を与えている。こうした長きに亘る幅広い活動は、長唄に限らず日本音楽分野での貢献であり、高く評価される。(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

### ◆ プロフィール ◆

1930 年 4 月、長唄研精会三味線方 稀音家喜次郎の次男として赤坂溜池で生まれる。5 歳の時初舞台で「お月様」を唄う。1949 年日吉小三八師(当時吉住)に入門。1952 年吉住小輔許名。同年 5 月荻江露友師に入門、1954 年荻江露苑許名。1955 年 2 月 NHK 邦楽技能者育成会第一期として入学。10 月「花葉会」を卒業生で結成。1958 年花柳徳兵衛師と中国へ演奏訪問。1960 年芳村伊久三郎師の推薦で長唄協会囑託、協会の社団法人化に尽力。1961 年二代目稀音家義丸襲名。1980 年イスタンブール世界古典音楽祭にて演奏。1993 年芸能学会理事となり今日に至る。杵屋栄二、日吉小三八、稀音家六多郎をはじめ、各派長老より多くの稀曲、伝承曲の教えを受け、長唄伝承曲の楽譜・録音を整理、その中の稀曲約 250 曲を製本、国立劇場資料課に寄託。

### ◆ 主な受賞歴 ◆

1991 年 文化庁芸術祭賞  
1997 年 第 17 回伝統文化ポौर賞  
2015 年 文化庁長官表彰



添付 1-3:各受賞者への贈賞理由及び各受賞者のプロフィール

### 3. 第46回 東燃ゼネラル音楽賞 洋楽部門本賞

井上 道義 (いのうえ みちよし)  
指揮

オフィシャルサイト  
<http://www.michiyoshi-inoue.com/>

株式会社 KAJIMOTO  
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-4-1 東海堂銀座ビル 5F  
Tel: 03-3574-0969/ Fax: 03-3574-0980  
<http://www.kajimotomusic.com/jp/>



© Mieko Urisaka

#### ◆ 贈賞理由 ◆

若い時から国際的な活躍を展開し、その後国内外で重要ポストを歴任し、現在もオーケストラ・アンサンブル金沢の音楽監督や大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者の重責を担う井上道義氏が、咽頭癌克服後に繰り広げている活躍ぶりは、以前にもまして目を見張るものがある。コンサートオペラなど様々な分野における斬新な企画や発想、得意の近現代の作品における鋭い切れ味と核心を突いた指揮はもとより、古典派からロマン派の作品においても、より懐の深い巨大な音楽を造形するようになった。その歯に衣着せぬ発言は時に物議を醸すが、それは彼の言葉が鋭く本質を突いているからであり、日本の音楽界は心して耳を傾けるべきであろう。今後の我が国の音楽界へのさらなる影響を期待して本賞を贈る。(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

#### ◆ プロフィール ◆

1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクール優勝。ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者を歴任。1999年、マーラーの交響曲全曲演奏会を実施し「日本におけるマーラー演奏の最高水準」と高く評価された。2007年ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト、2013年サンクトペテルブルク交響楽団日本ツアーを企画立案、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2010年「京都市文化功労者」、社団法人企業メセナ協議会「音もてなし賞」を受賞。2007年よりオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督、ならびに石川県立音楽堂アーティスティック・アドバイザーに就任。ラ・フォル・ジュルネ金沢を含む多くの実験的企画を敢行し続けている。2014年大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者に就任。就任披露演奏会直後、病に倒れるが同年10月に復帰を遂げる。自宅にアヒルを飼っていた。

#### ◆ 主な受賞歴 ◆

1990年	ザ・シンフォニーホール国際音楽賞 クリスタル賞
1991年	第9回中島健蔵音楽賞
1998年	フランス政府芸術文芸勲章 シュヴァリエ賞
2009年	第6回三菱UFJ信託音楽賞奨励賞《歌劇イリス》
2010年	京都市文化功労者
2010年	社団法人企業メセナ協議会 音もてなし賞(京都ブライトンホテル・リレー音楽祭)



添付 1-4: 各受賞者への贈賞理由及び各受賞者のプロフィール

#### 4. 第 46 回 東燃ゼネラル音楽賞 洋楽部門奨励賞

萩原 麻未 (はぎわら まみ)  
ピアノ

オフィシャルサイト  
<http://mami-hagiwara.net/>

株式会社 KAJIMOTO  
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-4-1 東海堂銀座ビル 5F  
Tel: 03-3574-0969/ Fax: 03-3574-0980  
<http://www.kajimotomusic.com/jp/>



© Akira Muto

##### ◆ 贈賞理由 ◆

萩原麻未さんが、1 位を出さないことで有名なジュネーヴ国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人として初めて優勝したのが 2010 年。その後も着実に成長を続け、協奏曲にリサイタルにとソロ活動でこの上ない集中力と自在感に富む演奏を展開し、今や我が国の音楽シーンでも欠かせない演奏家の一人となっている。その彼女が、このところ室内楽演奏にも進境著しく、共演者と繰り広げる見事な掛け合いや絶妙の間合いから生み出される充実極まりない室内乐的愉悦は、これまでの日本人ピアニストには余り見られなかった感性に彩られた非常に魅力的なものである。ソロはもとより、室内楽分野におけるこの活躍が、我が国の音楽界にさらに大きな刺激と影響をもたらすことを期待して奨励賞を贈る。(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

##### ◆ プロフィール ◆

2010 年第 65 回ジュネーヴ国際音楽コンクール(ピアノ部門)において、日本人として初めて優勝。年によって 1 位を出さないこの伝統あるコンクールでの 8 年ぶりの優勝となった。広島県出身。第 27 回パルマドーロ国際コンクールにて史上最年少の 13 歳で第 1 位。広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院及び同音楽院修士課程、パリ地方音楽院室内楽科、モーツァルテウム音楽院を卒業。現在、パリを拠点に日本、フランス、スイス、ドイツ、イタリアなどでソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行っている。これまでに、スイス・ロマン管、南西ドイツ放送響など、国内外における主要オーケストラとも共演を重ねている。2014 年にはトヨタ・マスター・プレイヤーズ・ウィーン、ヴォーチェ 弦楽四重奏団とも共演、好評を博した。

##### ◆ 主な受賞歴 ◆

2000 年 第 27 回パルマドーロ国際コンクール第 1 位  
2001 年 イタリア・フィナーレリグレ市 文化交流賞  
2010 年 第 65 回ジュネーヴ国際音楽コンクール<ピアノ部門>優勝  
2011 年 広島市民賞  
2012 年 第 22 回新日鉄住金音楽賞 フレッシュアーティスト賞  
2012 年 第 22 回出光音楽賞  
2012 年 文化庁長官表彰(国際芸術部門)



## 添付 2: 東燃ゼネラル児童文化賞・音楽賞の概要

### 東燃ゼネラル児童文化賞・東燃ゼネラル音楽賞 概要

東燃ゼネラル児童文化賞及び東燃ゼネラル音楽賞は、日本の児童文化、音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設されました。毎年、児童文化賞、音楽賞邦楽部門、音楽賞洋楽部門本賞、音楽賞洋楽部門奨励賞の4賞につき、各々1個人または1団体が選ばれ、それぞれトロフィーと副賞賞金200万円が贈られます。

#### 【東燃ゼネラル児童文化賞】

1966年に創設された児童文化賞は、今年で51回を数える歴史ある賞に発展しました。受賞者と受賞分野の多彩さがこの賞の特色であり、作家、学者、研究者、評論家、歌手、俳優、野草園長、子供新聞の編集発行、人形劇の祭典、ミュージカル主宰など、全国的に著名な活動からあまり知られていない地域の活動まで、児童文化の各種分野から幅広く受賞者が選ばれています。

#### 【東燃ゼネラル音楽賞】

1971年に創設された音楽賞は、今年で46回目を迎えます。また、洋楽部門では1989年より、日本を代表する優れた若手音楽家を讃えるために奨励賞が設けられています。邦楽部門においては、これまでに21人の受賞者が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績ではなくそれまでの実績全体に視点を置いた選考を行っている点がこの賞の特色です。

#### 選考方法

児童文化界、音楽界の有識者の方々に受賞候補者の推薦を依頼し、その結果を参考にして、各部門3名の選考委員により構成される選考委員会において審議の上、受賞者を決定しました。

#### 選考委員（敬称略、順不同）

【児童文化賞】	松居 直	児童文学者
	野上 暁	児童文化研究家
	仲居 宏二	教育教養放送コンサルタント・聖心女子大学非常勤講師
【音楽賞 邦楽部門】	徳丸 吉彦	お茶の水女子大学名誉教授 聖徳大学教授・京都市立大学客員教授
	塚原 康子	東京藝術大学教授
	加納 マリ	日本音楽研究
【音楽賞 洋楽部門】	関根 礼子	音楽評論家
	中村 孝義	大阪音楽大学理事長・名誉教授
	諸石 幸生	音楽評論家